

2024年2月12日

アルプスの森(施設長:宇津慎史)から送られてきた悠生君の母親の tweet に関する批判に対しての検討を以下に記載。

① 同社が清水様に対し、同年3月16日付回答書を郵送したこと以外は、通知会社から積極的に働きかけることは控えておりました。

「同社が清水様に対し、同年3月16日付回答書を郵送したこと以外は、通知会社から積極的に働きかけることは控えておりました。」

→

吹田市へのアルプスの森(施設長:宇津慎史)が吹田市へ提出した報告書(令和5年9月10日)には、以下のようにアルプスの森(施設長:宇津慎史)は何度も遺族に謝罪したと記載。

当事業所は、行方不明となった直後から、男児のご両親に対して何度も謝罪し、行方不明となった原因等も説明し、情報提供に努めて参りました。

さらには、アルプスの森(施設長:宇津慎史)が自分たちのホームページ(Hp)に以下内容を記載。

当事業所は、行方不明となった直後から、X君のご両親に対して何度も謝罪し、行方不明となった原因等も説明し、情報提供に努めて参りました。

積極的に働きかけることを控えていたはずであるにも関わらず、対外的には何度も謝罪したこととなっている。アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、遺族以外には何度も謝罪をしていると誤認させるような印象操作を行っていると思われる。

② 本件事故について、通知会社が説明をしていないかのようなツイート等がありますが、同社は同事故直後から清水様に口頭で何度も事故原因を説明しております。また、清水様からの要請に基づき、同年1月16日付報告書もお渡しし、同書に対する清水様からの詳細な質問事項についても、同年3月16日付回答書で説明しております。

「本件事故について、通知会社が説明をしていないかのようなツイート等がありますが、同社は同事故直後から清水様に口頭で何度も事故原因を説明しております。また、清水様からの要請に基づき、同年1月16日付報告書もお渡しし、同書に対する清水様からの詳細な質問事項についても、同年3月16日付回答書で説明しています。」

→

事故報告書(令和5年1月16日付)の内容と、回答書(令和5年3月16日付)の内容に明らかに多くの記載内容の乖離が存在していることをツイートでは指摘しており、まともな説明を受けていないと記載していた。そもそも③の記載内容からすると、「通知会社が説明を二転三転させている」のツイート内容を批判している時点で、「通知会社が説明をしていないかのようなツイート等」に関しての批判の意味が不明である。通知会社が説明をしない限り、説明内容は二転三転しない。

③ 従って、通知会社が本件事故について説明をしていないかのようなツイート等は事実ではありません。また、通知会社が説明を二転三転させているとのツイート等もありますが、このような事実もございません。

「従って、通知会社が本件事故について説明をしていないかのようなツイート等は事実ではありません。また、通知会社が説明を二転三転させているとのツイート等もありますが、このような事実もございません」

→

上記記載通り、矛盾した批判をアルプスの森(施設長:宇津慎史)はしている。通知会社が説明をしない限り、説明内容は二転三転しない。

④ 確かに、清水君が神崎川方面に向かって走り、行方不明となった後に尾崎が取った行動等について、通知会社が説明を訂正したことはありましたが、何かを隠そうとしたものであるとか、意図的なものでもありません。

「確かに、清水君が神崎川方向に向かって走り、行方不明となった後に尾崎が取った行動等について、通知会社が説明を訂正したことはありましたが、何かを隠そうとしたものであるとか、意図的なものでもありません。」

→

上記のアルプスの森(施設長:宇津慎史)が訂正した内容に関し、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側の説明では、事故報告書(令和5年1月16日付)に記載しなかったために、回答書(令和5年3月16日付)と記載内容が変わっているだけであり、意図的に隠したのではなく、記載内容が足りなかったためであるとしている。しかしながら、記載内容に明らかな矛盾が生じている。その矛盾に関しての説明は今までない。認められた矛盾点については本 Hp の不誠実対応⑱と不誠実対応-26 で言及。

#### 本 Hp の不誠実対応⑱

アルプスの森(施設長:宇津慎史)の作成した事故報告書(令和5年1月16日付)と回答書(令和5年3月16日付)に記載されている「当該事故を起こした従業員の事故当時に動き」に関し、明らかな乖離が生じている。

#### 本 Hp の不正実対応-26

保護者会(令和5年9月8日)に事故を起こした当該従業員が悠生君を追いかける時に転倒した場所及び、最後に悠生君を確認した状況を説明した内容が、事故報告書(令和5年1月16日付)及び、報告書(令和5年3月16日付)に記載内容のほぼ全てを覆す内容になっている。

⑤ 真実を隠しているとのツイート等も度々見受けられますが、真実を隠している事実はございません。

「真実を隠しているとのツイート等も時々見受けられますが、真実を隠している事実はございません。」

→

既にかなり多くの重大な嘘が警察の取り調べで判明している。

車保護者説明会(2023年9月8日)において靴を履かせたはずの職員が、靴はしっかりと履かせたと説明も、靴の性状を誤認していたことが判明。(不誠実対応-28 説明文 参照)

以下に現時点において報道されているアルプスの森(施設長:宇津慎史)が行ってきた「真実隠し」を記載。

宇津容疑者らが市に「運転手が男子生徒の腕をつかんでいたのに振り払われた」と報告していたことも明らかになった。しかし、施設から押収した資料から、運転手が助手席の荷物を取っている間に清水さんが飛び出したと記したメモが見つかったという。府警は、容疑者らが事故の責任を追及されないう、市に虚偽報告を繰り返していたとみている。

(毎日新聞オンライン 2023年12月13日引用)

事故後、宇津容疑者らは両親に、「悠生さんが運転手の手を振りほどいて走り出した」「運転手が業務を重ねることで、『1人で大丈夫』と考えるようになってしまったことが原因」などと説明していました。しかし、捜査でわかったことは、今回の事故が起きたとき、運転手は腕をつかむどころか助手席から荷物を取ろうと目を離して、2018年以降、事故以外にも2度、悠生さんが車から飛び出し、水路に入り込んだり、川に飛び込もうとしたりしたことがあったということでした。

(YTV 2023年12月30日引用)

警察の調べに対し、運転手(48)はすでに逮捕されている施設の運営会社代表の宇津慎史容疑者(60)から、「手をつかんでいたというその説明のままにしておけ」と、口裏合わせをするように指示されたと話しているということです。

(ABC ニュース 2023年12月22日引用)

警察のその後の調べで、この生徒が2019年にも送迎車から降りたあと行方不明になり、現場の川に飛び込もうとしているところを職員に保護されていたことが分かりました。

警察によりますと、施設側はこの時も1人で対応していて、両親や自治体には報告していなかったということです。

調べに対し、宇津代表らは、事実関係を認めたいうえで「自治体の監査を受ける恐れがあったので報告しなかった」などと供述しているということです。

(NHK News 2023年12月22日引用)

2018年以降、今回の事故以外にも2度、悠生さんが車から飛び出し、水路に入り込んだり、川に飛び込もうとしたりしたことがあったということでした。

雅美容疑者らは職員に口止めするなどした結果、こうした事実は両親に伝えられませんでした。

(YTV 2023年12月30日引用)

府警によると、亡くなったのは清水悠生さん＝当時(13)＝で、2018年3月と19年12月に送迎車から敷地外に飛び出して一時行方不明になって施設近くの水路に入ったり、川に飛び込もうとしたりした。行方不明などの事故が発生した場合、施設側は自治体や保護者に報告する必要があるとされているが、逮捕された代表社員宇津慎史容疑者(60)らは吹田市に報告しなかった。当時対応した職員にも「悠生

さんの母親には一切話さないように」と口止めをしていた。

(共同通信 2023年12月22日引用)

吹田市はことし2月、施設に対する監査を行いました。事故があった当時、送迎のマニュアルはなかったにもかかわらず、施設側が市に対し「運転手が独断でマニュアルを守らず、1人で対応した」とうその報告をしていたことが捜査関係者への取材でわかりました。

マニュアルは実際には事故の直後に作成されていたということです。

警察は、代表らが施設の安全管理に問題がなかったかのように装ったとみて、詳しいいきさつを調べています。

(NHK News 2023年12月13日引用)

施設の代表・宇津慎史容疑者(60)と兄の雅美容疑者(65)(いずれも業務上過失致死の疑いで逮捕)が、事故後の市の聞き取りに虚偽の説明をしていたことがわかったのです。

当初、宇津容疑者らは「送迎マニュアルを作成していたが、運転手が独断で守らなかった」と説明していましたが、その後の捜査で、マニュアルは事故の直後に作成されていたことが判明。

逮捕前の調べに「(慎史容疑者と雅美容疑者の)2人で相談して作成した」「事故が起きたのにマニュアルもないと思われるのが嫌だった」と話していたということです。

(YTV 2023年12月22日引用)

⑥ さらに、ツイート等の中には、清水君が発見された時は全裸であり、警察は意識がなくなる前に、苦しくてもがいて脱げていったと説明したというものがあります。しかしながら、代表者及び宇津はご遺体に掛けられたブルーシートの隙間から、服を着ていた点を確認しております。  
従って、全裸であったとのツイート等は事実と異なるものではないかと考えております。事実関係確認のため、よろしければ上記のように説明した警察官の氏名を明らかにして頂ければ幸いです。

「さらに、ツイート等の中には、清水君が発見された時は全裸であり、警察は意識が亡くなる前に、苦しくてもがいて脱げていったと説明したというものがあります。しかしながら、代表者及び宇津はご遺体に掛けられたブルーシートの隙間から、服を着ていた点を確認しております。

従って、全裸であったツイート等は事実と異なるものではないかと考えております。事実関係確認のため、よろしければ上記のように説明した警察官の氏名を明らかにして頂ければ幸いです。」

→

詳細は不誠実対応②に記載。

この批判内容は遺族側には耐えがたい内容である。遺族は何度も悠生君が苦しんだ姿が頭から離れず辛い思いをしているにも関わらず、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側にはそういった感覚を持ち合わせていないから平気で同内容を批判できるのであると考えている。

そもそも、アルプスの森(施設長:宇津慎史)の不幸で、悠生君は行方不明になってしまったにも関わらず、宇津兄弟(宇津雅美と宇津慎史)は、施設の通常開所を優先し捜索活動に専念することをしなかった。

さらには悠生君が見つかった時に、宇津雅美は警察署に悠生君に会いに来ると言った約束を土壇場で反故にした。またその反故にした理由の説明も二転三転しており、その度に遺族を非難してきた(不誠実対応⑬・不誠実対応-30に記載)。

警察署に来る約束を土壇場で反故にしたために、悠生君が見つかった時にどのような状況であったかを宇津兄弟(宇津雅美及び宇津慎史)は知らない。そのためこのような批判を遺族にして来た。

この批判に対し、悠生君の母親は再度、警察に確認。発見時、警察官の誰が説明したのかは不明だが、異常死体なのでちゃんと書類に記載が残されており、全裸であったことは間違いないと説明を受けた。

⑦ 本書をインターネット上で公開することはお控え頂きますようお願い致します。

「本書をインターネット上で公開することはお控え頂きますようお願い致します。」

→

令和5年4月に本文が遺族側に届いた時点では、遺族側はまだこの一文を尊重しインターネット上での公開を控えていた。しかしその後の警察の調べで、アルプスの森(施設長:宇津慎史)が多くの重大な真実の隠蔽や虚偽報告を行ってきたことが判明した。さらに宇津兄弟(宇津雅美及び宇津慎史)は、施設利用者への度重なる暴行で逮捕された。すなわち事実を隠蔽し悪質な行為を繰り返すのが、アルプスの森(施設長:宇津慎史)のやり方であることが明白になった。従って、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側は本書での遺族への非難が適切ではないことを理解しているため、インターネット上での公開を控えて欲しいと考えていると思われた。そのため、遺族側は本書の公開をすることにした。